









埼玉県の北部のまち本庄市児玉町。 本庄の中心部はかつては中山道最大の宿場町として 多くの人や物が行き交った歴史があり、 児玉は養蚕のまちとして栄えた農村エリア。

みまもりあうまち、児玉

昔はあたりまえにあった地域の人のつながり。 近所の人のことを気にかけ、ちょっとしたおせっかいをする。 顔見知りがたくさんいて、困ったら声をかけあえる、 あたたかい空気。ゆたかな自然と協力しあう 農村文化をもつ児玉にはそんな日本の懐かしい姿があります。

Kodama

しかし、近年は少子高齢化が進み、 地区の人口が減るとともに子どもたちも少なくなっています。 暮らしを支える商店や福祉施設も減っていくなか、 これからのまちづくりは、地域の人たちが 主役となっていくことが求められています。

児玉の森こども園は、

こどもたちの「じりつときょうりょく」を保育理念に掲げ、 50年以上に渡り地域の子育てを担ってきました。 自主性を引き出す「みまもる保育」というメソッドのもと、 子どもたちの創造性とやさしさにあふれる行動によって、 たくさんの気づきや驚きが生まれています。

将来の地域の担い手である子どもたちを中心に、 まちのさまざまな人たちがつながることで、 児玉は懐かしくて新しいまちとして 続いていくと考えています。

Osyaberi-Syokudo Osyaberi-Syokudo

「おしゃべり食堂」の3つの特徴



食で人がつながる 場をつくる

園庭で育てた野菜や果物で食事をつくりみんな で食べることで、地域の自治の力を高め、防災 や防犯につなげる



2 気軽に参加できる 環境をつくる

それぞれに合った役割をその場で決めることで、 気負うことなく参加できるため、さまざまな地 域や年齢の人が集まれる





3 地域の文化を 伝承する

この地域の先輩方から教わりながら、地域の食や文化を体験することで、地域の文化や暮らしの知恵を守る。



「食×おしゃべり」によって人がつながり合う地域をつくる食堂

みんなで食事を作ったり、食べたりすることで、さまざまな違いによる壁がなくなり、 自然とおしゃべりが生まれる。食は人との距離をなくすだけでなく、つながりも生み出す。 地域の人たちがおしゃべりをしながら、自分たちのつくりたいまちを、自分たちでつくる場… それがおしゃべり食堂

07 Osyaberi-Syokudo

セミバイキング

配膳する子が、とりに来た子に、どれくらいの量が食べられるかを確認して盛り付ける。自然にコミュニケーションがとれ、自分で量を決めることから、責任感が生まれて食べ残しが減る。



ここが魅力

残食が減ってゆずり合う精神が生まれる。

高齢の方は量が食べられないことも多く、子どもは苦手な野菜があるが、無理強いしないから、楽しく食べられる。他人のことを考える機会ができるうえ、食べ物が無駄になりにくい。

2主体性を大切にする

保育のさまざまなシーンで、保育者が見守ることで、子ども自身が考えて決めていく。一人ひとりの個性が大切にされるだけでなく、自立を促し、子ども同士が協力するようになる。



ここが魅力

無理のない自治の関わり方が確立する。

役割が与えられるのではなく、どんなことにチャレンジしたいか、ボランティア自身が毎回決めるため、急に休んで他の人に迷惑をかけることもない。気軽にチャレンジできて楽しめる。

3デイリークッキング

日々の給食では、0 歳児から、発達によって調理に関わっている。さまざまな経験をつうじて食材に慣れ、好き嫌いがなくなったり、食に興味が生まれて楽しく食べることができている。



ここが魅力

保育の

みんなで用意することで 地域の絆が深まる

食材からメニューを考えたり、作り方を相談するなど、共に協力して食事を用意する。学生と高齢者といった年齢の壁を超えた会話が自然に生まれ、絆が深まり仲良くなる。

ともらり



4 異年龄保育

子どもたちは異なる年齢が混ざり合うなかで日々を過ごしている。年下の子に配慮する心が育ったり、年上の子を見て真似をするなど、異年齢との関わりから刺激と学びを得て、心も頭も育つ。

ここが魅力

高齢者はより元気に、若者は優しくなれる

準備や片付けの際にそれぞれの年齢のボランティアが混ざり合って協力する。高齢者は知識を発揮し、若者は力を発揮している姿が見られ、どちらにとってもプラスになる環境が生まれている。

O9 Osyaberi-Syokudo Osyaberi-Syokudo





近所にお住まいの、昔は幼稚園の先 生、こども園の卒園児のおばあちゃ ま。アコーディオンと腹話術が得意 で、食事の BGM の演奏、子どもた ちが恐る恐る近づく人形で、場を楽 しくしてくれています。





こだま高校は、農業課と工業課そ れぞれが総合的学習の場として参 加。上武大学は野球部のたくまし い学生さんが 10 キロの道のりを 自転車で駆けつけてくれます。



地域には心強い子育ての先輩たちがいま す。例えば元保育士のベテランお母さん。 季節の野菜や花々を育てながら、暑い日 の水分補給、野菜の収穫体験など、地域 の子どもたちと交流しています。



かつての園児たちも大学生に成長し、手伝いに来 てくれます。保育士をめざす女子は生き生きと子 どもたちとふれあい、近所に住む男子は慣れ親し んだ地域の人たちに会うことを楽しんでいます。

社協から地域の活動のサポートのためお手伝いに来ていただ いたり、行政や地域団体のみなさんにも支えられています。 地域メディアの取材も活動の励みになっています。



園の給食で使う野菜を提供し てくださる八百屋さんや農家 さん、毎回食材の支援をして くださるお肉屋さん、ボラン ティアとして毎回参加のガソ リンスタンドさん、さまざま な商店の方も応援団です。



くなるる

>提供、音楽や腹話術、テーブルを飾る花々、べり食堂は、地域のたくさんの人たちに支えられてい

新たな仲間に声をかけあい、 写真を撮ったり荷物を運んだり、

お世話になってまた関係が生まれたり、

関わり方は実に多様

まちの人たち自身でつくりだしています。

音楽や腹話術、



保育施設を起点としたまちづくり

保育施設は、長年にわたり子どもをつうじて地域の関係性を築いてきました。これを生かした食の場をつくることによって、まちの人たちの新たなつながりや役割が生まれ、まちに必要なことは自分たちの手で作るという意識が育っていきます。そして、活動はまちへと広がり、日々の暮らしをゆたかにし、災害などの有事には助けとなっていきます。

地域活動の拡大



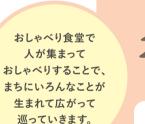
子ども・若者の地域教育 の場を広げる

小中高校の総合的学習の時間との連携による訪問や プロジェクト活動をつうじて、生徒さんたちが地域 と関わりながら学びあい成長する。若い力で関わる 人たちもまちもどんどん元気になっていきます。



行政や地域団体の 活動サポート

地域課題に向き合う団体や個人の活動を紹介したり、 実験的な企画にいっしょにチャレンジする。まちの 活動も、おしゃべり食堂と共に成長し、活動の環が 広がっていきます。 物保連携型 児玉の森こども園







おしゃべり食堂













この場から

新たな 活動が生まれる

いっしょに食べることで人がつながる。おしゃべりの中から理想のまちの姿やこんなお店や場所がほしいなどのアイデアが湧いてきます。応援しあって実際にやってみることで新たな活動が生まれて広がっていくのです。

地域への広がり



災害対応力の強化

(炊き出し、避難場所を知る、有事に助け合う関係)

日常的にまちの人が集まって食べることで、災害時 に声を掛け合ったり、炊き出し、避難所の運営など がスムーズになります。有事に助け合えるまちの力 が育まれるのです。



空き家の活用による、お店や居場所づくり

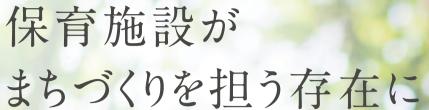
まちには空き家や空き店舗が年々増えています。お しゃべり食堂から生まれる新しい活動で物件が再生・ 活用されていくことで、まちに賑わいが生まれてい きます。



食の場の広がり

食によって解決できることは実に幅広くあります。 地域の伝統食の継承や行事食、子どもの食育、障が いや病気・介護への対応などさまざまな食の取り組 みに広がっていきます。

15 Osyaberi-Syokudo 14



子どもの減少や施設の老朽化などにより、 全国各地の保育施設で統廃合が進んでいます。 小さなまちには保育施設は一つしかないことも多く、 保育施設がなくなると、子どもを育てる環境が なくなってしまいます。

日本の地域には、それぞれ素晴らしい特徴があるにも関わらず、 依然として都市に人口が集中しており、

この傾向はより加速していくようにも見えます。

個性ゆたかな能力をもった子どもたちには、

自由度の高い環境や関わる人の多様性が必要です。

保育施設は、子どもを起点として、

親だけでなく祖父母も関わります。

また、給食の食材業者や農家、園を直す大工さんなど 地域の事業者や行政などたくさんの人とのつながりがあります。 保育施設の役割をまちに広げていくことで、 地域の子育て機能を維持しながら、

まちの人たちみんなで子どもをみまもり育てていくことで、またに活気とつながりが生まれます。

まちに活気とつながりが生まれます。

私たちは、児玉のおしゃべり食堂から、 さまざまな地域にこの取り組みが広がってほ<mark>しいと考えていま</mark>す。





サポートアペートナーシップ

わたしたちは、個人や団体、企業のみなさまと、

この活動をつうじて共によりよい社会をつくっていく"仲間"になれることを願っています。 内容や関わり方については、個別に意見交換しながら形にしていきたいと考えています。 お気軽にお問い合わせください。

サポートいただきたい内容

- ■活動資金の寄付
- ●物品や食材の提供
- ●人的なお手伝いや参加
- その他、独自の協賛プログラムなどによる支援

みなさんのご協力で













使い道



- おしゃべり食堂の運営 (食材や備品の購入、その他経費)
- ●食農活動の資材や運営
- ●ここから新たに生まれる活動へのサポート

パートナーシップ型の協働の例

学ぶことも

- ●教育機関の授業や課外活動
- ●学生や社会人のインターン
- ●学術機関の研究やフィールドワーク
- ●メディアでのご紹介
- ●企業の社会貢献、人材育成など



自分たちの地域でも取り組みたい方

- 自治体のまちづくり(新しい自治、インクルーシブまちづくりなどのテーマ)
- ●保育施設による子どもを中心としたまちづくり
- ●その他、食や子育てをテーマとした 地域のプロジェクト企画・推進など

お問い合わせ

子育でも



おしゃべり食堂事務局

〒367-0212 埼玉県本庄市児玉町児玉 2448-1

TEL 0495-72-0551 営業時間 10:00~17:00

with@kodamakids.com

公式サイト: https://oshabely.net/





公式サイト

こどもまんなか

こどもまんなか応援サポーター宣言

わたしたちは、こどもたちが健やかで 幸せに成長できる社会を実現するというこども家庭庁が提唱する「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し、 2025 年 9 月から「こどもまんなか応援サポーター」に参加します! こどもたちの未来のことを常に考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できる 社会を実現する取組みを推進していきます。

19 Osyaberi-Syokudo Osyaberi-Syokudo